〈富田版地域共生社会　イメージ図〉 2017-2022　事業部門　中･長期計画

2017 年 9 月 27 日→2018 年 3 月 09 日改訂

（一社）タウンスペースWAKWAK　事務局長　岡本工介

「地域･家庭･学校･行政･大学･企業と協力しながら “ただいま～“と言える子どもたちの居場所をつくる」 事業

から はじまる“富田まるごと“プロジェクト （5か年計画）案　内部資料

■2017 年度

○子ども分野

〈子どもの居場所づくり事業　2014 年～〉

〈地域･家庭･学校･行政と連携した子どもたちを支えるセーフティネット〉

○対象エリア

第四中学校区

○地域社会全体

〈長年の財産　＋風　地域共生社会〉

長年の財産

○地域にある弱者を切り捨てない文化
○地域･家庭･学校･行政の連携文化
○差別解消の取り組みの蓄積

厚労省『我が事』『丸ごと』地域共生社会

制度･分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体**が『我が事』**として参画し、人と人、人と資源が世代や**分野を超えて『丸ごと』つながる**ことで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

（平成 29 年 2 月 7 日厚生労働省「我が事･丸ごと」地域共生社会実現本部決定）

2018 年 3 月 10 日（土）

地域福祉ラウンドテーブル

（地域内フォーマル・インフォーマルのネットワーク）

〈制度化への種まき〉

○子どもの貧困対策事業報告　富田版「共生食堂」「ケア付き食堂」報告

○次の方向性　長年の財産×国の動向　地域共生社会の動きを見据えて困難を持つあらゆる人を地域で支える仕組みへ進化

WAKWAK

コレクティブ
インパクト
発信元

■2018 年度　子どもから高齢者まで困難を持つあらゆる人を地域で支える仕組みへの進化（1 年目/5か年計画）

子ども･子育て層領域

わんぴーす

学習支援

（学力保障）

子育て不安

経済的貧困

ただいま食堂

夕刻を支える場

（ケア付き食堂）

発達障がい

虐待

不登校

○通年（4 月～3 月）で子どもたちを支える仕組み

○連携会議（2 か月に 1 回）

WAKWAK（地域）･小中学校･青少年相談との連携

○青少年相談（随時）　親支援

○ケースカンファレンス　困難ケース対応

地域全体

☆重点

わくわく食堂

（共生食堂）

富寿栄住宅建替え
との連動

☆重点

地域貢献プロジェクトの発足

○虐待等緊急時の居場所となる子どもの居場所整備

○9 月　わくわく食堂＆盆踊り　協働開催

○2 月下旬　わくわく食堂

地域、家庭、学校、行政、大学、企業
多職種が連携して創る居場所
＜コレクティブインパクト＞

地域福祉グランドデザインづくり

地域の包摂型ネットワーク

住民領域

○富田自治会連合
○民生･児童委員
○富寿栄連合自治会
ほか

障がい者領域

○（社福）つながり
○グループホーム
ほか

高齢者領域

○地域包括支援センター
○富田ふれあい文化センター
○富田老人福祉センター
○富寿栄老人会･つむぎの家
ほか

ひきこもり

親亡き後の障がい者

生活困窮

認知症

一人暮らし高齢者

地域の中にある SOS
を見捨てない！

☆重点

包括的な総合支援体制の整備

支援を必要とする子どもから高齢者までの住民が抱える多様で複合的な地域生活課題について、分野を超えて住民や教育･福祉関係者による①把握及び②関係機関との連携等による解決を目指す。

☆重点

地域支え合い事業メニュー化と試行

○企業との連携（CSR）

○大学との連携

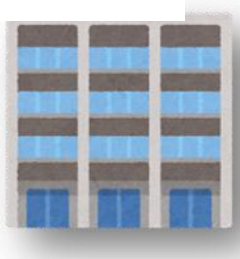
･マンパワーの発掘

･教育･福祉現場に出る前の現場経験

･平安女学院大学

･関西大学

･大阪人間科学大学　ほか

○高槻市･社会福祉協議会等との連携

･必要に応じて市の福祉事務所･社協･SSW･子育て支援センター･児童相談所との連携を図る。